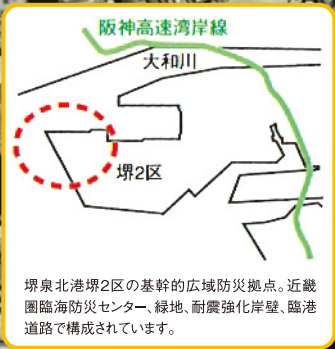


# 大規模地震発生に備えた 応急災害活動の新拠点がスタート



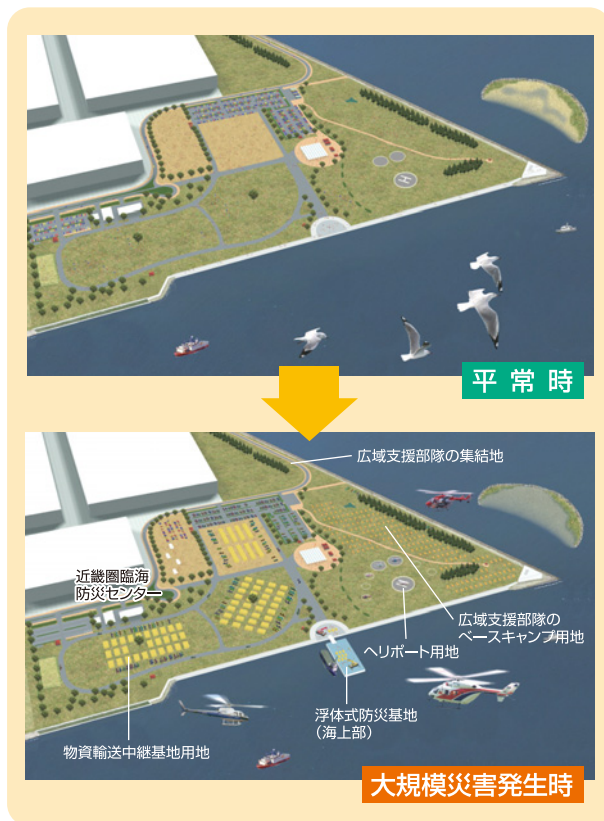
堺泉北港堺2区に、西日本初の「基幹的広域防災拠点」が整備され、平成24年4月1日からスタートしました。大変難しい名称ですが要するに、都道府県単位では対応不可能な広域かつ甚大な災害が発生した時に国と地方公共団体が協力して応急復旧活動を展開するための施設なのです。既に設けられている関西圏の広域防災拠点と連携し、広域的な救助活動や、空輸・水上輸送による救援物資・人的支援の受け入れを行う大切な中継基地の役割を基本に、被災地支援のベースキャンプ、災害医療支援なども担います。今後発生が想定される上町断層帯地震や、南海トラフ巨大地震などの大規模災害に備え、応急活動の核になる施設を現地からレポートします。



レポーター：小林 しのぶさん

## 平常時→「海とのふれあい広場」が、 災害時→「基幹的広域防災拠点」に

大阪府堺市の国道26号の海山町交差点から西へ5km進むと、「海とのふれあい広場」という約27.9ヘクタール(甲子園球場の約8倍)もある広大なスペースが広がっています。広く市民に無料開放され、ドッグランで愛犬を遊ばせている人や、バーベキュー広場を利用している家族の姿が見られ、「海を眺めながら散歩できる、こんな広い公園が堺にあるなんて!」と驚きました。でも、これは平常時の風景です。大規模地震などの発生時(一度に複数の府県市が被災する場合など)には、「基幹的広域防災拠点」として、国や府県市などが相互連携し、広域的な救援物資輸送の総合調整を行う所が緑地内の近畿圏臨海防災センターに設置され、広域防災ネットワークの重要拠点として機能することになります。4月21日には、陸・海・空3機関が初動を確認する合同防災訓練が実施されました。東南海・南海地震による津波の発生を受けての拠点運用を想定し、近畿地方整備局、自衛隊、海上保安庁などが参加して災害時の防災・救援機能を確認したそうです。



## 基幹的広域防災拠点の役割

敷地が広くて1枚の写真では納まりません!

■救援物資の中継・分配基地に  
被災地域外から被災地内へ、救援物資を中継輸送。収集、荷さばきして分配し、各交通ネットワークと連携しながら必要な場所へ届ける拠点になります。

移動式発電機は上部が発光して非常光に!

■応急復旧用資機材等を備蓄  
近畿圏臨海防災センターの車庫棟・倉庫棟には、フォークリフトやバックホウ、けん引式運搬車、移動式発電機、大型テント、投光器などを保管しています。

たくさん応援要員が来ても、だいじょうぶ!

■広域支援部隊が集結するベースキャンプ地に  
全国から集まる支援部隊や救護班、国内外からのNPOやボランティアの方などの一次集結地・連絡拠点として、野営も可能なベースキャンプ(約3,000~5,000人)が可能です。

大阪港内に係留された浮体式防災基地が、ここに接岸!

■海上輸送を支援  
基幹的広域防災拠点とは大規模地震など、大災害が発生した際の応急活動の核となる拠点。主に救援物資の中継基地や被災地支援のベースキャンプ、災害医療支援を担う。西日本では初めて、堺泉北港堺2区に設置されました。

緑地は広いので、ヘリコプターの離着陸も無理なくOK!

■災害医療を支援  
緑地内の臨時ヘリポートを利用し、災害拠点病院などと連携した医療支援の補完・支援を実施します。



## 災害応急活動の支援を行う「近畿圏臨海防災センター」

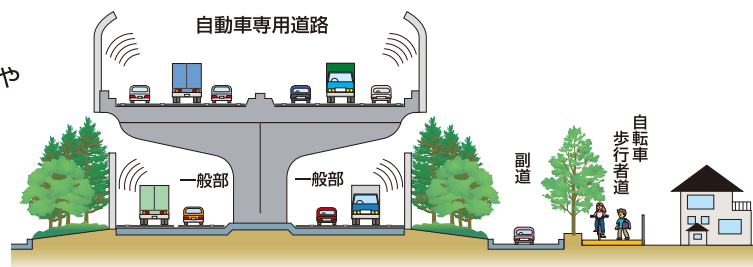
緑地内にある近畿圏臨海防災センターを訪問しました。施設支援棟、車庫棟、倉庫棟で構成されており、支援施設棟は国の方が24時間体制で災害応急活動に備えています。3階会議室は他地域の道路、河川堤防、港湾施設の様子が映る複数台のモニターがあり、関係機関の活動内容を調整するための会議スペースが設けられてありました。自家発電機は、津波の影響を考慮して海拔7m以上に配置しており、建物外にも堅牢な防水板を設置できる仕組みに。さらに万が一に備え、近隣の工場とも受配電可能な電源システムで安定確保に注力していました。また、1日約5,000人分(1人3ℓとして計算)の飲料水を急ろろ過でつくれる海水淡水化装置も装備。緊急時に備えた数々の準備と取り組みを、大変心強く感じました。





## 全線開通3年目を迎えた第二京阪道路(枚方・門真間)

第二京阪道路 枚方東I.C～門真JCT間の工事が終了し、2年以上が経過しました。建設の目的だった、国道1号の慢性的な渋滞解消や地域活性化への貢献、災害時の緊急搬送の安定化など、京都・大阪間の新たな動脈として期待された“緑立つ道”。その開通後の状況を確認するため、現地取材しました。



### 実際に車で走って快適さを実感！心地よい開放感を感じました

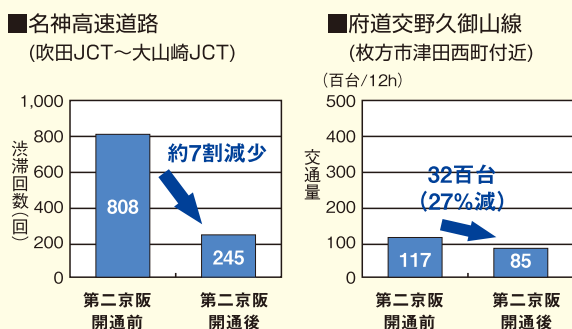
第二京阪道路(自動車専用道路)を実際に走ってみると、まず、その開放感に驚きました。近隣への騒音配慮で設けた遮音壁も圧迫感が無く、走行中気になりませんでした。一定以上の高さを保った、ゆるやかな曲線設計も効果を上げていると思います。次に、同じコースの一般道路(国道1号)を走行したところ、「この道も高速道路では？」と錯覚に陥るほど、快適にドライブできました。路面にすきまを多く設けた高機能舗装のため、タイヤとの接触で生じる発生音が通常道路よりも抑えられており、静音さを十分に実感できました。また、第二京阪道路の開通により病院間の転院搬送時間が約13分(開通1年後データ)短縮されるなど、地域の救急医療体制に大いに貢献しているようです。



快適な走行を実現できるため、多くのドライバーからも好評

### 周辺道路の状況(交通量)(開通1年後)

第二京阪道路の開通に伴い、名神高速道路や周辺道路の多くは、交通量・渋滞が減少。



### 開通後の主な整備効果

- 国道1号主要交差点、第二京阪道路と並行する主要一般道路の混雑解消
- 生活道路への流入交通量が大幅減
- 地域内の渋滞緩和で月60万時間(14億円相当)の節約効果
- 高速道路のピーク時速度が広域的に向上
- 地域の利便性が向上し住宅需要が拡大(寝屋南地区でまちびらき)
- 地域の産業や商業活動が活性化
- 高速バス路線の増加など広域観光に貢献
- 地域の救急医療体制に貢献(13分の時間短縮)

資料提供: 国土交通省 近畿地方整備局 浪速国道事務所



寝屋川第2トンネルの上は市民公園に。副道の道幅にもゆとりがある



自転車道、歩行者道を設置。植栽帯も整備され、高速道路沿いとは思えない安全で静かな環境

### トンネルの上に、緑豊かな公園を発見

自動車専用道路のトンネル構造部分では、その上が緑地公園として整備されていました。途中で立ち寄った「寝屋川第2トンネル南緑地/北緑地」もその一つです。ベンチが置かれ、近辺で発掘された遺跡のレプリカなども造られていて、近隣の人々が気軽に立ち寄り、くつろげるスペースになっていました。高速道路の上なのに、真下を行き交う車の騒音がほとんど気にならないから不思議です。周囲には戸建住宅が建ち並んでいました。便利になっただけでなく、こうして静かで緑豊かな生活環境も創造されているため、新しいまちづくりにも最適な条件が整っているというわけです。沿線では地域ごとに独自のまちづくり方針が策定されており、地区によっては協議会も設立されているようです。風景に調和した戸建住宅のまちなみに、計画的なまちづくりの成功を感じました。

### 高速道路建設効果で発展。活性化する地域の様子を確認

第二京阪道路沿線では地域産業や商業も活性化し、企業、大規模商業施設、工場など約100件の進出を決めています。その一つが、沿線に2011年6月に開業したロードサイド型のショッピングモール(寝屋川市)です。2000台を超える駐車場が完備され、専門店も数多く出店しており平日でも地域の人々がショッピングや食事に訪れていました。また、枚方市に入ると、産業活性化のけん引役としての役割が期待されている科学のまち「津田サイエンスヒルズ」があります。関西文化学術研究都市や関西空港などへの交通アクセスがより便利になることを予想し、各種研究・商品開発を行う20社1大学研究施設が集結。事業規模をさらに拡大予定の企業もあるそうです。津田サイエンスヒルズの頂に枚方を一望できる「空見の丘公園」があり、そこからは第二京阪道路と、これからさらに開かれていく沿線のまちなみが広がっていました。高規格の高速道路整備は、単に渋滞緩和・時短効果という目的にとどまらず、防災対策としての役割を担いながら、地域の環境を育み、まちづくりや産業活性化などの側面支援にもつながっていることを、実際に通ってみて肌で感じることができました。周辺住民と一体になった交通網と住環境づくりは、地域の将来までしっかり見据えたものだと思います。全線開通3年目を迎えた今、高規格の道路がもたらすその大きな波及効果に、暮らしを豊かにする交通網整備の重要性を再確認しました。

取材協力: 国土交通省 近畿地方整備局 浪速国道事務所



先端分野の企業も第二京阪道路沿いに進出



第二京阪道路を見下ろせる「空見の丘公園」からの眺望



整備された自動車専用道路、一般道路、副道ともに、利用率は高い



沿道には大型スーパーが進出し、戸建住宅が並ぶ。第二京阪道路効果で便利になり、地元経済が活性化している

